



子ども村：ユニバーサルステーション便り②
子どもたちの笑顔をつくる支援を！



「コロナ禍の生活状況については、収入の減少、仕事をなくした、物価高により暮らしが大変」

「子どもの教育費がかかり大変、また、今後進学にかかる費用など心配」

「パントリーがあり、とても助かっており、月1回だけではなくもっと回数が増えてほしい」

これはフードパントリー&生活用品の配布、相談カフェ参加された方たちからの感謝のことばです。暮らしの大変さが伝わってきます。

長い夏休みが終わり、二学期が始まりました。子どもたちには、時間に縛られない自由な時間と様々な体験ができる夏休みですが、忙しい毎日を通じ親たちにとっては、給食がない夏休みは大変です。特に、ひとり親世帯の場合は、もっと大変！食費は、もちろんのこと、光熱水費もばかになりません。二学期が始まりホッとしているのではと思います。

荒川区には、地域のボランティアさんたちの手で、食事、学習、暮らしの支援をする「子どもの居場所」が7か所と「子ども食堂」「多世代地域食堂」が11か所あります。さらに不登校、ひとり親家庭支援、学習支援、生活支援、相談支援などの活動団体と

行政の子どもに関わる福祉、教育等の機関、都立大学、社会福祉協議会等により「あらかわ子ども応援ネットワーク」が組織されています。

あらかわ子ども応援ネットワークでは、月曜日〜日曜日までの1週間を、できるだけ食事の提供ができるように、夏休み期間も、感染予防をしっかりとし社会活動やお弁当の提供をしています。また、食べ盛りの子どもたちを育て暮らしが大変なご家庭に食材の提供も行っていきます。

そして、ひとり親世帯で児童扶養手当の受給されている100世帯を対象に、毎月第3日曜日に、フードパントリー&生活用品の配布、相談カフェを実施しています。荒川区の子育て支援課よりひとり親世帯に発信しているメルマガで通知をしていますが、すぐに定員が埋まります。

「みなさんからいただく食材・寄付金が、フードパントリーを支えています」

毎回、お米、野菜、ラーメン、乾麺、調味料、レトルト食品、お菓子、缶詰などの食材や、衣類、バック、文房具、おもちゃ、生理用品などの生活用品を配布しています。これは、荒川区に住む皆さんや区内外の企業、生協等から届く食材や支援金、また、区内で広がるフードドライブに届くたくさんのおみやげや区子育て支援課の助成金、防災課からの備蓄品の支援で賄われています。

「多くの善意に支えられて」

配布当日には、食材を配布の準備と配布、受付、検温、生活用品を手にとりやすいように並べるなどの準備をしたり、子どもや暮らしにかかわる相談や情報提供など、毎回30人を超えるボランティアさんたちが集まり運営を支えています。

「食材と生活用品・学用品を集めています」

子ども用紙おむつ・学用品・ピアニカ・書道・絵画用セット・お米（2か年以内国内で収穫したもの）・未開封で賞味期限が2ヶ月以上ある食品（対象食品の例は以下のとおり）缶詰、レトルト食品、インスタント食品、フリーズドライ食品、調味料、乾麺、（パスタ・素麺・うどんなど）、お菓子、飲料（水・ジュース・コーヒー・紅茶など）、ギフトバック（お歳暮・お中元・贈答品など）、離乳食、粉ミルクなど

皆さんの支援が、子どもたちを笑顔にし、元気にします。

【お知らせ】

来年4月入学する子どもたちにランドセルを！

10月7日・8日 11時〜17時 南千住1-20-1ジョイフル三の輪商店街 南千住区に於て、子どもたちの居場所「サザンクロス」が取り組む「ぐるぐるランドセル」を開催。

区内学校PTAのみなさんの協力を得て集まったランドセルを再利用し安価で販売します。

